産業人クラブだより ―かけはし―

トップインタビュー

平和産業会長（NITEC埼玉産学交流会）大竹 功一 氏

埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会の平和産業（さいたま市南区、048・861・7401）は、マイクロモーター向けなどの小型含油軸受「ピースロン」が主力製品だ。電機関連を中心に幅広い分野で採用されている。また、ほかにもさまざまな焼結金属による精密機械部品を手がけており、年間供給量は十数億個にも上る。1日付で社長職を息子の政行氏に譲った創業者の大竹功一会長に、現状と展望を聞いた。（藤崎竜介）

◇

―1日付で政行氏にバトンを渡し、新たなスタートを切りました。

未来を開く研究開発
焼結含油軸受 芽が出る

「若返りが必要だと判断した。私は代表取締役会長として若手の教育などに力を入れていく。社員一人ひとりが目標・目的を持ち、達成のために何をするべきかをしっかりと考えるようしなければいけない。海軍の軍人だった山本五十六の『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ』という教育を目指したい」

―新卒も採用しました。

「日本工業大学卒の新戦力が加わった。設計関連業務を担当させる。NITECでの産学交流がきっかけとなり、入社してもらうことになった」

―現在、力を入れていることは。

「未来を切り開くための研究開発に力を注いでいる。ベースになるのが月1回開いている『開発プロジェクト会議』だ。大学関係者らが技術顧問として参加している。こうした顧問は現在約5人おり、技術的課題の解決などに貢献してくれている」

―フッ素樹脂と金属成分を合成した融合金属で被膜する焼結含油軸受「LFメタル」は、埼玉産業人クラブ主催の「2012年度西海記念賞」を受賞しました。これからの事業展開が期待されますね。

「従来品に比べて摩擦係数を半減し、静音性、耐久性を向上できるのがメリット。埼玉産業人クラブ会員の仁科工業（さいたま市中央区）と共同開発した。当初はなかなか採用してもらえなかったが、ここにきてようやく芽が出そうな状況にある。カーエアコンなどの部品として、14年中に供給を開始できる見通しだ。これを皮切りにして積極的に横展開したい」

―創業54年目を迎えました。

「創業当時は家族を養うために必死に働いた。睡眠時間は平均4時間ぐらい。時間と命だけが自分の資産だった。自作して用いていた自動粉末成形機は、今も本社入口に展示してある。時代は変化したが、一生懸命に汗を流して働き、稼ぐという基本姿勢はこれからも変わらない」

おおたけ・こういち　61年（昭36）平和産業創業。14年会長。福島県出身、77歳。

産業人烈伝

信頼関係を財産に
サンコー・室井良樹会長㊤

終戦から3年後、すべての物が不足していた1948年にサンコーは衣料品メーカーとして創業した。その後、家庭用編み機の製造販売に乗り出し、パイオニアとして事業を伸ばした。

私が大学を卒業して入社したのは61年。家庭用編み機事業が隆盛を極めていたころだ。現業の安全帯はほそぼそとした売り上げにすぎなかった。それでも本格展開するために、ギリシャ神話の力強い勇者の名から「タイタン」というブランド名を付けた年でもある。

家庭用編み機は斜陽産業となるのだが、当時は屋台骨を支える主力事業だった。私は数少ない安全帯の営業員として配属されて肩身が狭かった。実際、編み機部門には「やっかいなお荷物」と言ってはばからない社員もいた。

さらに悔しかったのは、安全帯の必要性や有効性が、なかなかユーザーに伝わらなかったことだ。安全帯に参入したきっかけは、近畿電気工事（現きんでん）からの依頼だった。電柱上で電線工事しながら、ロープの長さを調節できる安全帯を製品化した。当然、作業時の安全性も確保していたが、日本のすべての企業が安全意識が高いという時代ではなかった。

現場では作業員の命が軽んじられていた。高所作業では荒縄を腰にくくり付け、命綱にするのが当たり前だった。鳶職にいたっては荒縄さえ使わない。ひらひらと舞うように自由自在に高所を動き回るのが鳶であり、命綱を使うのは一人前ではないと見なされていた。

このため、私が営業に行っても相手にされない。「そんな物をつけていたら仕事にならない。それでは鳶ではなく、カラスだ」などと笑われた。「帰れ！」と罵声を浴びせられたこともあった。

私は電力会社や建設会社、造船所、工場、林業関係などの幅広い職種を対象にして全国に足を運んだ。繰り返し、粘り強く営業することで、理解してくれるユーザーを増やした。しかし、社内においても社会においても安全帯は黎明期で、まだまだ普及していなかった。それだけに、当時、後に自分が社長になるとは思ってもいなかった。

入社して50年余、私は営業しかやっていない。そしてたどり着いた営業の極意は、根気よく説明することだ。これに尽きる。何回も顔を合わせるうちに、自然と相手との信頼関係ができる。この信頼関係が私の財産になっている。（全3回）

車に安全帯を積んで全国を飛び回った室井会長（当時）

トピックス

掛川 堀金属表面処理工業
Mg合金耐腐食性向上

掛川産業人クラブの堀金属表面処理工業（静岡県掛川市、堀辰男社長、0537・72・4820）は、マグネシウム（Mg）合金製品の表面処理技術「陽極酸化処理」を手がけている。Mg合金は軽量で強度も高いが、酸化しやすいため耐腐食性の向上が課題だった。陽極酸化処理により、電子機器や輸送機器部品などに適用できるようにした。

業界に先駆けてMg合金の陽極酸化処理の開発に着手。2000年に岡山工場（岡山県高梁市）にMg合金用陽極酸化処理の量産ラインを設置した。研究開発を重ねて、現在は塩水噴霧試験1000時間以上に耐える高耐食性を実現した。さらに陽極酸化処理被膜を薄くして導電性を持たせることにも成功。デジタルカメラの部品や携帯電話の筐体（きょうたい）向けなどで受注を獲得している。

最近は超軽量車いす向けフレームの表面処理も手がけた。堀誉裕常務は「医療・福祉関係向けが増えつつあるほか、鉄道関係の部品にもMg合金の陽極酸化処理の需要が広がってきた」と笑顔をみせる。

単なる表面処理の受注生産にとどまらず、「取引先への測定・分析データの提供や、加工工程で蓄積したノウハウを基に技術提案する」（堀常務）。こうした姿勢を貫き、競争力の向上と事業拡大を目指す。

陽極酸化処理を施した輸送機器部品

小さくても本物

いわき 常磐エンジニアリング
インフラ分野強み

いわき産業人クラブの常磐エンジニアリング（福島県いわき市、相楽賢治社長、0246・27・6201）は、各種産業用機械の設計・製造が主力。前身が旧常磐炭坑の修理工場という老舗企業で、インフラ分野に強みがある。火力発電所の石炭供給コンベヤーや上下水道施設のポンプ設備、除塵機から水門まですそ野が広い。

インフラ関連設備は単品受注が多い。設計から製造、据え付け、メンテナンスまで一貫対応し、顧客ニーズに応えてきた。相楽社長は「都市機能に直結している。40年間ほど稼働させるが、決して止まってはいけない」と、安定稼働を維持するための長期的なメンテナンスの重要性を説く。

自社製品の開発にも積極的。コンクリートパイルの製造搬送ラインに組み込む「ボルト自動締緩装置」は、特許を取得している。搬送ライン上で半開きする金属パイプを閉じボルトを締め付け、コンクリートを注入。回転させて円柱状に成型し、ボルトを緩めてパイプを開き、製品を取り出して次の工程に送る。この一連の作業を自動化した。作業者の振動病を防止し、騒音対策にも効果を発揮する。相楽社長は「ITや3次元などの新技術を採用して国内外で差別化し、提案型営業で受注を獲得する」と意気込んでいる。

常磐エンジニアリングの浄水場除塵機

中小・小規模事業者政策について
北川企業庁長官が講演

東京産業人クラブ女性部会（佐川八重子会長＝桜ゴルフ社長）は2日、KKRホテル東京（東京都千代田区）で4月例会を開いた。経済産業省・中小企業庁の北川慎介長官を講師に迎えて「最近の中小企業・小規模事業者政策について」と題して講演した。女性経営者ら53人が参加した。

冒頭、佐川会長は「女性部会は2014年に17年目を迎えた。会員企業数は現在約50社で創業10年以上の会社が中心ですが、最近は若い女性経営者が集まってきています。例会での意見交換を通じ、会社が元気になる〝お土産〟を持って帰ってほしい」と呼びかけた。

北川長官は中小企業を取り巻く経済環境の解説し、①被災地の中小企業・小規模事業者対策②中小企業の87％を占める小規模事業者支援施策③開業率の向上策④中小企業・小規模事業者の黒字化対策⑤海外展開支援⑥消費税転嫁対策⑦地域活性化対策―などの中小企業政策の柱を紹介した。その上で「中小企業は雇用の7割を支える国民経済にとって大きな存在だ。また従業員規模が小さな企業ほど全従業員に占める女性従業員や女性管理職の割合が高い。女性経営者として活躍している皆さまには、ぜひ後進を育ててほしい」と強調した。

一方、会員からは「創業には細やかな支援が必要になる。女性やシニア層の創業を支援する施策はありますか」「政府のプロジェクトを受注するのは大企業がほとんど。中小企業は下請けとして関わるだけ。初めから中小企業が受注できる仕組みにしてほしい」「以前は優秀な従業員を表彰する制度があり、中小企業庁長官賞があった。長官賞を受賞したら従業員のモチベーション向上になるし、会社の信用度の向上にもつながる。表彰制度を復活させてほしい」といった活発な意見が飛び交った。

▲上女性経営者の皆さまには後進を育ててほしい…と北川長官
下講演を熱心に聞く参加者

ナンバーワン目指して
後藤日進工具会長が講演
ブラ産業人クラブ 長野

長野産業人クラブ（太田哲郎会長＝オリオン機械社長）は2月19日、ホテル国際21（長野市）で新春講演会を開いた。超硬小径エンドミルメーカーの日進工具の後藤勇会長が「ナンバーワンを目指して～我が社の歩みと成長戦略～」と題して講演した（写真）。後藤会長は1991年に社長に就任。直後に経験したバブル崩壊や工場焼失による赤字から経営を立て直し、04年にジャスダックに上場した。講演では創業時から現在までの売上高と経常利益のグラフを示し、町工場から上場企業への歩みを紹介した。

赤字経営から脱却するために社長や役員の給与をカットする一方、社員の給与カットや人員整理は一切しなかった。経営方針説明会を開いて全社員に社長の意志を伝達し、収益回復を実現した。これを振り返り、「何もしなければ変わらない」と経営者の決断と行動が重要だと訴えた。

また経営戦略では「メイド・イン・ジャパンこそ最強の戦略」と強調。国内生産にこだわるとともに、国際競争力を高めることが大切だと説いた。

さらに中小企業が大企業に勝つためにはトップに熱意が求められることや、社員とコミュニケーションしてチームワークで事業を伸ばすことが最善だと説明した。その上で「スピード感と情熱で事態に向き合い、決断し実行したことで成果が出た」と締めくくった。講演終了後は後藤会長を交えて懇親会を開き、交流を深めた。

4―5月の予定

【4　月】

◇5日（土）多摩産業人クラブ・西東京支局共催「親睦ゴルフ大会」（東京都青梅市、東京バーディクラブ）

◇10日（木）―11日（金）新潟・神奈川産業人クラブ共催「神奈川県の企業見学、交流会＆親睦ゴルフコンペ」（山勝電子工業、宝電機工業、横浜カントリー倶楽部）

◇14日（月）茨城産業人クラブ「県幹部歓迎＆意見交換会」（水戸市、中川楼）

◇17日（木）東京産業人クラブ・東京産学交流会「4月定例会『革新に挑戦する中小企業経営セミナー』講師／西尾智之西尾硝子鏡工業所社長、古川亮一睦化工社長」（東京都大田区、蒲田月村ビル）

◇18日（金）―20日（日）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「台湾学外研修」

◇21日（月）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会「工場見学会」（曙ブレーキ工業）

◇23日（水）埼玉産業人クラブ「2014年度定時総会＆埼玉ちゃれんじ経営者表彰式」（さいたま市浦和区、浦和ロイヤルパインズホテル）

◇23日（水）名古屋産業人クラブ「2014年度定時総会＆記念講演会『私の歩んだ道～モノづくりから学んだTPSのこころ』講師／加藤由人DMG森精機社外監査役」（名古屋市中村区、名鉄ニューグランドホテル）

◇28日（月）九州・山口産業人クラブ「親ぼくゴルフ大会」（福岡県太宰府市、太宰府ゴルフ倶楽部）

【5　月】

◇17日（土）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会「第14回親睦ゴルフ大会＆5月例会」（埼玉県上尾市、大宮ゴルフコース）

◇19日（月）岐阜産業人クラブ「2014年度定時総会＆記念講演会『当社の航空機産業への取り組みと海外進出』講師／今井哲夫今井航空機器工業社長」（岐阜市、岐阜グランドホテル）

◇20日（火）茨城産業人クラブ「経済講演会＆パネルディスカッション『研究開発でイノベーション』／特別講演『変わり種企業の考え方』講師／酒井眞一郎興研取締役会長」（茨城県水戸市、水戸京成ホテル）

◇21日（水）大阪産業人クラブ「2014年度定時総会＆記念講演会『強い人間になろう』講師／水野彌一京都大学アメリカンフットボール部元監督」（大阪市都島区、太閤園）

◇27日（火）名古屋・岐阜産業人クラブ「OSG八名工場＆グローバルテクノロジーセンター見学会」（愛知県新城市、豊川市）

◇29日（木）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会「群馬方面へ工場見学会」（富士重工業、ミツバ）

◇29日（木）九州・山口産業人クラブ「2014年度定時総会＆講演会＆交流会」（福岡市博多区、ホテル日航福岡）

愛知淑徳大の真田氏 東アジア情勢を解説
山形産業人クラブ

山形産業人クラブ（松村英一会長＝エムテックスマツムラ会長）は2月21日、日本の宿「古窯」（山形県上山市）で、「新春講演会と交流懇親会」を開いた。愛知淑徳大学ビジネス学部長の真田幸光氏が「今年の東アジア情勢と日本経済の展望」をテーマに講演した（写真）。会員ら約20人が参加した。

真田氏は世界経済の動向を踏まえつつ、ドルや新興国の通貨の動きを解説。世界経済システムにおける東アジア情勢を説明した上で、「特に注視しているのはタイの動向。リスクが存在している」との認識を示した。一方、日本経済については「それほど良くはならない」と予測した。

懇親会では松村会長が「モノづくり中小企業の状況は厳しいが、より連携を深めて現状を打破しよう」と呼びかけた。会場では会員らが和やかに談笑する姿が見られた。

広島県の製造業4社の現場視察
多摩産業人クラブ

多摩産業人クラブ（塩野博万会長＝塩野製作所社長）は2月20、21の両日「広島地域産業視察＆交流会」を開催した。初日はディスコ桑畑工場（広島県呉市）と瑞穂（同熊野町）を訪問した。ディスコでは半導体ウェハーを切るダイシングソーなどの組み立てラインを、瑞穂では化粧筆などの各種ブラシを熟練の技で手作りする様子を見学した。懇親会では中国四国産業人クラブの会員らと情報交換し、親交を深めた。

翌日は日本製鋼所広島製作所（広島市安芸区）で射出成形機の製造を、トーヨーエイテック（同南区）で研削盤の製造を見学。日本製鋼所では広大な現場に製造中の機械が隙間無く並び、組み付けられていた。これを見て参加者からは「スケールの大きさを感じた」と驚きの声が上がった。

また昼食は「牡蠣船かなわ」で取れたての牡蠣を堪能。マツダミュージアム（広島県府中町）も訪問し、往年の名車や日本のモノづくり技術を支える機械を肌で感じた。

ゴルフ大会
山口氏が優勝
大阪産業人クラブ

大阪産業人クラブ・ゴルフ部会（山口伊太郎部会長＝アジア化成工業所社長）は3月14日、城陽カントリー倶楽部（京都府城陽市）で「第78回ゴルフ大会」を開催した。前日の悪天から一転、肌寒いものの支障なくプレーできて山口ゴルフ部会長も一安心。幹事の山口宣弘氏（写真左、富士電熱開発社社長）がグロス98、ネット81・5で優勝し、「昨日まで工場のある中国で上海がにを食べたので、午前のハーフはカニパワーが効いたようです。ただ昼にカキフライを食べたら午後は元に戻ってさっぱり。でも優勝できてうれしいです」と笑いを誘った。

大会では組み合わせの4人が全て70歳以上のメンバーから「この組は年寄り組か！」などと、ぼやきも。メンバーの一人が山口氏と同ネットだったが「ローハンディ者が優先です」とのルール説明にガックリ。ただプレー中も会食中もこの年寄り組が一番にぎやかだった。

第1回ゴルフ大会
木村氏が優勝
城北産業人クラブ

城北産業人クラブ（齋藤裕会長＝サイトウ製作所会長）は3月12日、大宮ゴルフコース（埼玉県上尾市）で「第1回ゴルフ大会」を開いた。暖かい日差しの中、会員ら6人がプレーし、オリエンタルエンヂニアリング（東京都荒川区）の木村良三相談役（写真左）が優勝に輝いた。木村相談役は齋藤会長からトロフィーを手渡されて「城北産業人クラブでもゴルフ大会を開こうという話をしていたが、なかなかチャンスがなく、ようやく実現した。今日が今シーズン初のプレーだったが、良い船出になった」と喜んだ。懇親会は「次回大会を開こう」などと盛り上がった。

新入会員

神奈川産業人クラブ

▽呂　敏氏　ポリテックジャパン社長（横浜市港北区新横浜3の1の9、045・478・6980、レーザー振動計や関連機器の輸入、販売、測定コンサルティング）

▽小笠原　宏臣氏　小笠原プレジョンラボラトリー社長（神奈川県足柄上郡山北町山北3819、0465・75・1510、小型精密歯車に関する高精度切削工具と高精度歯車および測定機器の開発製造・販売）

▽渡辺　学氏　ニイガタ社長（横浜市鶴見区駒岡2の12の5、045・580・3181、研究開発用実験器具・装置などの開発）